

風は中々に根治する事は難事で御座います。若し此の儘に悪い方に染まらずに進むにしまして、其の成功の覺束なき圖り知るに難くはないと存じます、マ一幼少よりの勉強の習慣がかくも大きな人間一生涯の大事となるを思へば、忽諸に附すべき問題でないと思存します。或は説がありません。幼児否少年時代に少しの勉強もしないで、中頃或る動機により感奮自後す、強んで勤勉し、遂に大成功をなせし人は數ふるに違がない程澤山あります。私は思ひます或はさる人もありません。しかし之れは尋常一様の人ではないのであります。或は幼児勤勉を好みしも境遇上勉強する事も出来ざりし人が何かの動機で翻然勉學に身心を入れるとか。又は勉強嫌なりし人が何か感ずる所があつて急變したとか、種々ありませうが、かゝる事は尋常一様の事として見るべきではありません。又一つには時勢といふものがあります、我邦でも明治の初年前後より二十有余年頃まではづゑぶん變則な勉強によりまして成功した人もありますが、今日の如きすべての方面

によく整頓しつゝある時代には尋常普通のもの尋常普通の道を通りて進むより外道はないのであります。其の尋常普通の道を踏むにふみそこなふ様では、將來の成功も覺束ない心地がいたします。だから毛色の變はつた人間ならばいざ知らず、マ一普通の人であれば普通に、否普通よりズエケテよく勉強し、少しでも研究の度を重ねて、この激しい生存競争場裡にカチドキを擧げる様な人を欲しいと思ひます。そーいたしますには、幼少の頃より親が氣をつけて、勉強の習慣をつけておく必要があると信じます。

齶齒の源因

某視學官の談に據れば東京市の學齡兒童六歳より十四歳迄の者十二萬人中齶齒ある者九萬人即ち百人中七十五人と云ふ驚くべき多數に達せる事調査に因て知れしとの事に餘りに意外の結果なるより其記者は志村齒科醫院長ドクトル志村誠麿氏を訪

へるに氏は「驚いたでせう、併し事實だから致方

がない

▲貴族に齶齒持が多い、昨年でした私は貴族の子

と平民の子との齶齒の様子を調べました貴族の兒

童の居る學習院、彼處の生徒の齒の事は醫學博士

樗村龜一郎氏の調査があつたから夫に據りました

が學習院在學の貴族の子弟は平均すると孰れも一

人四五枚宛の齶齒持ちである其處で私は平民の兒

童の調をしますと此方には齶齒が甚だ少くて平均

すると二人に一枚位宛しか齶齒が無い割合になつ

て居る即ち貴族の兒童は平民の兒童より七八倍餘

計の齶齒持である事が解つた

▲貴族の齒の弱い譯をこで其理由を調べて見る

と貴族は一體に山海の珍珠を食つて居る此山海の

珍珠なる物には齒の滋養分になる石灰鹽類が極く

多し上に凡て柔らかい、齒を丈夫にするには石灰鹽

類を餘計含んだ食物を食つて齒に滋養分を與へる

上に一方では始終硬い物も食つて齒に勞働充血を

起させるると云ふ事が肝腎である然るに貴族の食物

は一體に柔らかいから夫だけでも齒が段々に弱くな

る所へ齒の滋養分を食ないから夫で貴族には齶齒

が多くなるのである東京市内の食物は近來次第に

贅澤になつて來た柔らかくなつて來た石灰鹽類を含

んだ物よりも之を含まない物の方を餘計に食ふ様

になつて來た是が即ち東京市内の兒童に數多の齶

齒持が出來て來た譯であらうと思ひます

▲平民の齒の丈夫な譯之と反對に平民の常食

は麥飯に若布汁貝類名古屋大根の切干めしなど

と云ふ類の物が多し兒童の食ふ菓子も貴族の子の

食ふ様なカステラとか羊羹とか云ふ柔らかい物では

無くして豆板豆ねち薩摩芋、切干等と云ふ硬い物

が多い此硬い者が皆齒の一番の滋養になる石灰鹽

類を澤山に含んで居る物なのである殊に名古屋大

根の切干の如き實に澤山に此石灰鹽類を持て居る

若布は名古屋大根の切干よりも一層澤山の石灰鹽

類を持て居る若布は又實に消化の良い物で三歳の

幼兒に食はせても宜いものである

▲齶齒は恐ろしい物一體に硬い物は消化の悪い

と云ふ缺點はあるが是は料理法をよく研究して食

べれば差支へまいと思ふ蘇格蘭人はオートミイ

ルで豆板の様な菓子を持つて食ふオートミールは
 石灰鹽類を實に澤山持つて居る物である夫で硬い
 菓子を持つて小兒の時分から食へ慣れるから
 蘇格蘭人は實に世男中第一等の齒の丈夫な人民で
 ある齒の衛生上から云ふと可成齒へ陰附かない
 サ／＼した米煎餅の様な物が宜い米煎餅などは口
 へ入れると齒に陰附かないのみならず唾で溶けて
 了ふから齒の爲には實に宜い齶齒と云ふ物は實に
 危険な物で其處から種々な微菌が入つて或は中耳
 炎をも起し或は骨膜炎をも起す實に恐ろしい物で
 す云々

薔薇の話

礫川生

愛玩植物の數は夥多あります。其のいづれを優
 れりといひづれを劣れりと致す事は出来ませんが
 花も美しく香もゆかしいものは薔薇に如くもの
 はありません。日本の櫻支那の牡丹と相對して泰
 西では大層薔薇を賞玩致します。その結果所謂

薔薇祭なるものが年々行はれると云ふ事です。こ
 の祭は古くローマ、ベニス等の町が盛んであつた頃
 より行はれ今猶五月には行ふと云ふ事です。殊に
 米國の西部は氣候温和にて四季花の絶ゆる事なく
 ワシントン州のタコマ市の如きは此の薔薇祭が最
 も盛んでありまして市中より妙齡の少女數人を選
 拔してその中の一人を薔薇の女神とし花を以て全
 身を飾り他の少女等を従へて市民より花の冠を
 いたゞく式があると云ふ事です。薔薇は日本に於
 ても古くよりあつて「いばら」「しやうび」「うば
 ら」「うまら」「さうび」などと稱しました。萬葉集
 十六及廿に「うまら」とあります然し薔薇は日本
 固有のものでなく支那若くは朝鮮を経て渡來した
 ものでありませう。然らば薔薇の原産地は何處か
 と申しますと之れはいろ／＼と議論のある事です
 が私は亞細亞だと信じます。今日では廣く世界に
 ゆき渡りましたが英國及佛國が薔薇の産地の重な
 るものであります。日本では古來あまり薔薇は賞
 玩致さなかつたものと見へ許六が百花譜中に
 「長春ばらのたぐひは紅白うつくしく粧ひたる